令和２年１０月７日招集

令和２年第１２回
にかほ市教育委員会会議録

にかほ市教育委員会

令和２年第１２回にかほ市教育委員会会議録

１．期　　日　　令和２年１０月７日　木曜日
２．場　　所　　金浦中学校　会議室
３．開　　会　　午後　３時００分
４．閉　　会　　午後　３時３１分

５．出席委員　　教育長　齋藤光正
　　　　　　　　委　員　佐々木郁子
　　　　　　　　委　員　小松雅子
　　　　　　　　委　員　伊藤　知

６．説明のための出席者
　　　　　　　　教育次長　齋藤一樹
　　　　　　　　図書館長　竹内　健

７．書　　記　　図書館長　竹内　健

８．会議に付した議案
　　議案第６９号　令和２年度教育費１０月補正について

９．可決した議案
　　議案第６９号　令和２年度教育費１０月補正について

１０．その他の確認事項
　（１）令和２年第１３回教育委員会は、令和２年１０月２６日（月）午前９時３０分から仁賀保勤労青少年ホームで開催することにした。

１１．会議の要旨

【開会　午後３時００分】

【教育長】
これから令和２年第１２回にかほ市教育委員会を開催いたします。今回の出席委員は４名であります。日程の第１　会議録署名委員の指名を行います。委員には、小松委員と伊藤委員にお願いしたいと思います。書記には、竹内図書館長を指名いたします。

それでは、日程の第２　議案第６９号　令和２年度教育費１０月補正予算について図書館長から説明をお願いします。

（図書館長　説明）

【教育長】
図書館長から説明がありましたが、議案第６９号について、質問等はありませんか。

【佐々木委員】
事業のネーミングが良いですね。学校が７校あることから、七色の虹を連想して、その虹が子供たちと本をつなぐ懸け橋になるという発想もできますし、市と学校との懸け橋にもなってもらいたいです。それぞれが選んだ本を友達同士、交換して読み合うとか、いろんな方向に発展、活用していただければ良いなと思います。

【小松委員】
とても良い事業だと思います。事業に関連してですが、本を選んでくれた方に謝礼はありますか。

【図書館長】
予算は発生しませんが、仁賀保金七郎グッズが間もなくできますので、そちらを差し上げたいと考えております。

【教育次長】
にかほ市とかかわりのある著名な方に、こんな本を読んでほしいという推薦をしていただく予定です。仮に、この事業でできなかった場合でも、図書館の企画の一つとして、著名人のおすすめ本コーナーを設けるなど、活用していきたいと考えております。

【伊藤委員】
事業費に一般財源を充てるという説明でしたが、今のコロナの状況で、にかほ市の財政は豊かなのかと、逆に、地域の企業や商店に依頼して欲しいなという気持ちもあります。皆さんがおっしゃるように、子供たちに投資するのは決して悪いことではないのですが、国の補助で行うのであれば大いに結構です。ただ、一般財源でこの事業を行うのはどうなのかと、疑問に思います。

【教育次長】
国の臨時交付金を活用できないか財政班と協議はしました。それが難しいということでしたが、この事業をやろうということになりました。学校訪問で休業中の子供たちの様子を聞くことができましたが、家でゲームばかりしていたという子も多く、少しでも

本に親しんでもらいたいという、読書振興の意味もございますので、ご理解いただきたいと思います。

【伊藤委員】
ラッキー賞を設けるというのは、どうなりましたか。

【教育次長】
学校から、平等性に欠けるので適当でないというご指摘があり、ラッキー賞はなくなりました。校長会長から感想文を書いてくれた子供に、図書券を贈ってはどうかという話もありましたが、本が届くのは来年２月頃になりますので、感想文を受け取って審査する時間が無いために、企画は見送りました。各学校で子供たちの感想を聞く機会を設けてくれると思いますが、教育委員会では、それは求めないことにしました。

【小松委員】
推薦者の本をもらった子供は、その方にお礼文を出しますか。

【教育次長】
240 冊近くあるリストから、推薦した方の本が選ばれないこともありますので、そこまでは考えておりません。

【伊藤委員】
反対意見ではないのですが、ブックスタート事業がありますよね。産まれた子供に本を贈った後の反響ってどうですか。その現状を把握したうえで、本を配ることが子供たちのためになるという判断で、この事業をやるのですか。

【教育次長】
先ほど申し上げましたが、家の中でゲームだけでなく、この機会に本を読む楽しさを知ってほしいという意味もありますので、委員の皆様からもご理解をお願いします。

【伊藤委員】
320 万円もの予算を計上するので、同じような事業をやるなら、もう一度、検証するべきだと思います。コロナが無くなっても継続していくことになるのか、年度末に小中学生にタブレット端末が来るから、電子図書で配布できる形にするのか、計画的にやっていかないと、ただ配ったから、それで終わりで良いという訳ではないと思います。

【教育長】
私が、市長に訴えることは、現場の先生方と子供たちが、未だかつて経験したことが

無い苦しみの中で頑張っていることに対して、市として認めて欲しいということです。
では、なぜ本なのか。コロナ禍で私が感じたのは、子供たちに自立心が無いということです。つまり、休業中に何をすれば良いか分からないから、家でゲームだけになってしまった。「こういう風に遊べばいい」という発想、アイデアがない。豊かな発想は、自分で勉強し、本で色々な知識を得なければ生まれないのです。
　中には、本を読みたくない子供もいると思います。特に1年生は、240冊もある中から選ぶのは難しいと思います。でも、これを機会に親子で、家族と一緒に読んで欲しいし、親子の絆も大事にしてもらいたいと考えています。そこから会話も生まれて、親子の絆が築かれるのです。
　市長は、図書館、本に対して非常に思い入れがあります。財源は補助金、あるいは、一般財源がありますが、現状では、子供たちに本を贈るための補助金は一切、無い訳です。補助金を使わずに、市でこうした事業をやっていると、大々的にアピールするチャンスであると捉えています。
　この後の臨時議会でも、色々な質問が出てくると思います。伊藤委員が質問したことも頭に入れながら、あらゆる質問に答弁できるように私たちも対応を考えていきます。

【伊藤委員】
　今回の事業が、本を配って終わるという、一過性のものにならないようにしてもらいたいと思います。ブックスタート事業を検証したうえで、小学校、中学校に広げていくという考えがあれば良いと思います。それを、今回だけ配っておしまいというのは、私からすると売名行為に思えます。「にかほ市ではこういう良いことをやりました」という。そうでなく、それをいかに継続していくのかが市にとって大切なことだと思います。

【教育長】
　この事業をやったことで、本を好きになった子が増えたとか、図書館に通う子が多くなったとか、そうした積み重ねをしていかなければいけないと思います。各学校で、データを集めていくということをお願いしていきたいと思います。ブックスタート事業の反響についても、図書館長を中心に検証していきたいと思います。

【図書館長】
　ブックスタートについては、その場でアンケートを取り、好評を得ていると聞いております。今後、検証していきたいと思います。

【教育長】
　いずれ、市長が公約に掲げている、図書館機能付き文化施設の構想もありますので、あらゆる事業と関連付けて、実態を把握しながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【小松委員】

私の子供が小さい頃に、本のプレゼントがあるということで、事前ヒアリングがありました。毎年ではなかったのですが、親子で「良かったよね」という意見なんです。“この年は、コロナで大変だったから、大人が私たちのために本を選んでくれた”というその想いだけが伝われば良いと思います。継続できれば一番良いのですが、売名行為と取られても、一過性でも良いと思います。

毎年、状況が違う訳ですし、これを継続するには、多くのお金がかかります。それに、毎年になると有難味が薄れてくるんですよね。

【教育長】

この後、来年度の予算編成時期に入ります。学校図書の充足率は100%に達していますが、これを120%、140%にしていくためにも、この事業で子供が選んでくれた本のリストをもとに、学校に寄贈する等、活かしていくこともできると思います。いずれ、継続の方法についても、考えていきませんか。

【佐々木委員】

低学年の選んだ本はどういうものかとか、高学年はどうかとか、科学に興味があるとか、文化に興味があるとか、子供たちがどういう本を選んだのか、知りたいです。

【教育長】

最後に、委員の皆様からご質問等ありませんか。

（なしの声）

【教育長】

異議がないと認めまして、議案第６９号について、原案どおりに承認いたします。

次回の教育委員会定例会は１０月２６日(月)の午前９時３０分から仁賀保勤労青少年ホームで開催いたします。以上で本日の委員会に提案された議案の審議は終了しましたので、第１２回にかほ市教育委員会を閉会いたします。

【閉会　午後３時３１分】

署名

にかほ市教育委員会 教育長 齋藤光正

〃 委 員 小松雅子

〃 委 員 伊藤知